

## 大詰めディスクロージャー：真理を求める戦い（Ⅱ）

### —— ISIS の正体——

【訳者注】ここに訳したのは、全4部の第2部の半分（前半）にすぎないが、前とのつながりで、一応まとまった読み物にはなっていると思う。ウィルコックは、これを一気に書いたのだから、全部通して読んでほしいと言う。しかも、今あなたのやっていることが何であれ、それを放置して読んでくれと言う。これは、彼が「ダムが決壊」に例える Disclosure が一気に押し寄せたときに、慌てないようにするためである。我々は主流メディアの創り出す、いわば過保護の世界に住んでいるのだから、せめて ISIS とかテロリズムの実態（大量不審死の出ているメガ銀行とのつながり）ぐらいは把握しておかないと、この先、起こるはずの地球と常識をひっくり返すような出来事に、対処できないだろうと言っているのである。そのショックの大きさを彼は、第一部の写真にあったような、愛し、信頼しきっていた人の背信行為に例えている。

By David Wilcock

November 26, 2015



### 巨大銀行が警告者を次々に殺す動機は何か？

最初に、ぜひ第一部を読んでくださることをお勧めする。4つの部分は同時に発表されている。

すでに読まれた方は、巨大銀行がテロリズムを資金援助しているという内部告発者の証拠

と、疑わしい銀行員の死の膨大なリストをご覧になったであろう。

我々はまた、銀行が気に入らない人々を暗殺する手段として、5人チームを使ってニセ自殺を演出するというインサイダー情報をリークした。

次の、Pam & Russ Martens による 2015 年 6 月 2 日の論文の抜粋は、巨大銀行が、彼らの職員を次々に殺そうとする動機の一つをわからせてくれる。

重罪レベルの犯罪の告発が、これほどあちこちの銀行を襲うのは、ここ 2 世紀で初めてのことである——

6/2: 「ウォール街の銀行員の死が続く：どうして真剣な調査がないのか？」

<http://wallstreetonparade.com/2015/06/wall-street-banker-deaths-continue-where-are-the-serious-investigations/>

何であろうと重大な調査の場合には、法執行機関は、犯罪のいかなる潜在的動機をも、調べることを義務付けられている。

しかし、過去 18 か月間に、高度に異常な状況下で繰り返し起こっている、ウォール街の銀行員や技術職員の間での連続的な死の場合には、死は警察によって、ほとんど瞬時に、疑わしい点なしとして片づけられている。…

<http://wallstreetonparade.com/2014/11/a-citigroup-banker-dies-along-with-responsible-press-reporting/>

ここ 2 世紀間に初めて、聖像的なウォール街の銀行が、連続的に重罪を犯しているとして告発されている。

これらの銀行は、この同じ 18 か月間、銀行員が疑わしい状況下で死んでいるという、重罪嫌疑がかけられていることを知っていた。

一連の「企業犯罪と起訴猶予合意」の後で、2 週間前の 5 月 20 日に、5 つの地球規模の銀行が、市場を操作したという刑事告訴に対し、有罪を認めた。

そのうちの 2 つはアメリカの銀行、シティグループと JP モーガン・チェースであり、最近の異常な死がここで起こっている。

## 現在進行中の訴訟は、メガ銀行を完全に破滅させるだろう

メガ銀行は現在、あらゆる種類の大きなスキャンダルに見舞われており、LIBORはその一例にすぎない。それらは組織的に暴露されつつある。

全体として、これらのスキャンダルは、こうした犯罪シンジケートが、可能なあらゆる市場を、自分たちに都合のいいように操作していたことを明らかにした。

これはすでに一般的に知られた事実である。

訴訟がすでに、膨大な数の、地方及び国の政府、被害を受けた組織や団体、それに連邦政府からさえ起こされている。

インサイダーたちは、メガ銀行に対して起こされた、現在進行中の多くの訴訟は、必然的に彼らの崩壊をもたらすだろうと言っている。今彼らは、一日延ばしに生きているだけである。

しかし、あまりにも疑惑のある銀行員の死のラッシュには、これよりもっと呆然とする秘密が隠されていることを、示唆している。

## 銀行は、彼らの殺す職員に生命保険をかけている——サイド・ビジネスとして

このナゾを更に探ると、これが行きつく果てではないが、これらの銀行が、偽装殺人によって自分自身の職員を殺すことによって、金儲けができるという事実がある。

もしあなたが家族の一員に保険をかけて、その人が“たまたま階段から落ちた”としたら、どうなるだろう？

あなたが、故意の殺人調査に巻き込まれる可能性は大きい。

今度は、小さなビジネスが、その労働者の一人に保険をかけることが許されたと考えよう。

その人が突然ナゾの死を遂げる。そのビジネスは、そのとき、すべての保険金を受け取り——死亡者の家族には何も与えない。

当然、このような場合には、家族は弁護士に相談し、このビジネスを刑事調査の対象にするだろう。もし家族が勝てば、このビジネスは解散させられるだろう。

メガ銀行はいつもその職員を保険にかける——その後で死ぬ職員も含めて。…しかし彼らは“大きすぎて倒れようがない”ので、誰も手が出せないのである。

Wall Street On Parade というサイトの Pam & Russ Martens が、このようなことをやっている銀行を、独自に調査しようと試みたとき、彼らは、これは「企業秘密」だと言われた。

## 従業員の死によって儲けるのは「企業秘密」

ここに、(第1部の)暗殺リスト11月分に載っている、銀行重役 Melissa Millan の刺殺についての、マーテンズによる調査の一部を抜粋しよう——

12/8/14: 「殺されたウォール街の重役は銀行員の死を調べていた」

<http://wallstreetonparade.com/2014/12/slain-massmutual-executive-held-wall-street-trade-secrets/>

2014年11月20日(火)、就学年齢の2人の子の離婚した母親、メリッサ・ミラン、54、の遺体が、午後8時ころ、あるジョギング・コース沿いで発見された。…

検死官の報告によると、ミランの死は「鋭い刃物」で胸を刺されたことによるものと断定された。

警察はこれを殺人と判定したが、住民たちが日常、ミランの利用した同じ道路を一人で走っても十分に安全とされていた、この町では珍しい出来事だった。

現在、明らかになった情報によると、ミランは、銀行収益に関するある高度に敏感なデータにアクセスしたが、この収益は、銀行従業員が死んだときに、彼女の保険会社から流れる生命保険金による収益だった。

[これが、]銀行の連邦取締役官が「企業秘密」と性格づけたデータである。

BOLI とは、“銀行保有生命保険”の略称だが、これは、銀行がその従業員の生命に対し、まとめて生命保険を購入するという、論争のある習慣のことである。

死亡給付金は銀行に払われるのであって、死亡者の家族にはない。…

(数行略)

JP モーガン・チェースは、今年は、30代の若い従業員の間に起こった多数の悲劇的な死を経験したので、我々はOCC（米財務省機関の1つ）に、2008年から2014年3月21日までの、JP モーガン・チェースが死亡給付金を受けた死のケースが、どれくらいあったか訊ねた。…

我々はまた、JP モーガン・チェースを、バンク・オブ・アメリカやWells Fargoやシティグループと比較して同じデータを出している、他の研究がないか聞いてみた。

OCCは、2014年4月18日、我々の要請に応じてくれたが、ただ、彼らは我々の要求に応える資料をもってはいるが、そのすべてが「特権的なもの、あるいは企業秘密を含むもの」なので、差し押さえられようとしているという話だった。

OCCはこの情報を与えてくれなかったが、(殺された)ミランは、連邦取締官以外の限られたグループの中で、多数の銀行が提出している死亡時給付請求について、幅広いデータをもつ、限られた人々の一人だった。

多数の銀行をまとめたデータを持つということは、我々がOCCに要求した、同じような研究に当たるものの作成を容易にしたであろう。これこそ、ウォール街が日の当たる場所に出したくない企業秘密だ。

## ISISが西側の舞台監督による作戦だという更なる証拠

もしミステリーがそこで終われば、我々は夜、もっと安らかに眠ることができるだろう。銀行たちはメガ訴訟を恐れて、潜在的な内部告発者を殺し続け、そこから利益を得ている。

しかし、“ウサギの穴”はもっと深いところに達している。

これらの銀行は、人類史上最も手の込んだ、冷酷な、集団犯罪に引き込まれている。主流メディアの観点からは、これはよく言ってもシュールリアルなものだろう——しかし真実である。

我々は、我々の自由や安全が、航空機を撃ち落としたり、罪のない人々を大量射殺したりするテロリストによって、脅かされていると言いつけられている。

我々は、これら烏合の衆的な宗教過激主義者が、あまりにも暴力的で、無慈悲で、強力なので、安全な人間は誰もいなくなったと言い聞かされる。

今、我々は、これらのテロリストが、メガ銀行自身から直接、死活的な資金を受け取っていることを知っている。

銀行がなければ、テロリストはいなくなるだろう。あるいは、控えめに言っても、彼らは目標を達成するのに、これほど効果的にはやれないだろう。

真理へようこそ。これはキチガイじみている。本当に、本当に嫌になる。こんなことは見ないようにした方がよほど楽だろう。しかし証拠は否定することができない。

Everett Stern は、このぞっとする事実を暴露した仕事のために“自殺させられる”ところを助かった、珍しく幸運な内部告発者の一人かもしれない。

### 道路わきの結構な防護柵：「すべて大きな誤解でした」

忘れないでいただきたい——エヴァレット・スターンは警鐘を鳴らした。銀行は、自分たちがテロリストを支援していることを認めた。彼らは静かにそれを公表し、罰金を払い、そして仕事を続けた。

懐疑家や、カネをもらっている誤報宣伝家の中には、銀行は、このカネがどこへ行くのか知らなかったのだ、と言う者があるかもしれない。

彼らはビジネスであり、彼らのビジネスは銀行だ。

彼らは利益を上げるためには、カネを循環させねばならない。

確かに彼らは、何億というカネを、イラン、リビア、スーダン、ビルマ、キューバ、それにメキシコのような国に送った。しかしそれは、道路や橋や学校を建設するためだった。

それはすべて大きな誤解だったのだ。「すみません、皆さん、私たちはちょっと貪欲でした。このカネが人殺しに使われるなんて、どうして想像できたでしょうか？」

これは車の防護柵として、結構、役立つかもしれない。

彼らはこれを自分の食欲のせいにし、何が起こっていたか知らなかったと言い、罰金を払い、たぶん中間層従業員を何人かクビにし、そして仕事に戻った。

## カネだけではなく直接の物理的な支援

「ウサギの穴」がさらに深くなっていくのは、銀行や彼らの下部組織が、これらのテロリストに、**直接の物理的な支援**を与えていたことを我々が知る時である。

ここには、後に見るように、彼らが必要とするすべての兵器や必需品の供給が含まれている。

もしこれが証明できれば、すべての“もっともらしい否定”の余地はなくなる。これは“誤解”ではありえない。これは大きな謀反である——ほとんど想像できないレベルでの。

もし我々が、銀行はまた、これらのテロリストのために、**すべての PR や市場取引**を行っていたと証明できたとしたら、どうだろう？

もし、銀行が彼らのためにビデオを作製してやり、銀行の所有し支配するメディア局で、こうしたビデオを放映していたことが、わかったとしたらどうだろう？

今、我々は一線を越えた。引き返すことはできない。メガ銀行は、世界を支配するという彼らの計画を実現するために、これらの悪漢どもを創り出し、宣伝しているのである。

これによって、何百万という人々の心を支配して、もう一つの戦争に持ち込むのに必要な、心理的影響力をもつグローバルなメガ悪漢というのを、読者は理解できたであろう。

これが人を不安にする話であることは分かっている。にもかかわらず、山のようなデータが押し寄せたとき、一気にそれに対処するのではなく、今ここで学んでおけば、あなたは他者にも理解を助けてやることができる。

## “ISIS の首切り” は、西側の演出したニセ・ビデオと思われる

下に示す、8月24日「恐ろしい地球的な出来事」に掲載した2つのリンクは、ISIS が、西側の演出による作戦行動だということを強く示唆している——イランとイラクの政府が当然の常識と考えているように。

ISIS のような集団は、高質なビデオを自前で製作できるほどの、カネも手段もノウハウも

持っていないかもしれない。しかし持っている誰かが確かにいる。

9/24: 「ビデオ証拠、トルコの TV が ISIS の首切りをやらせた」

<http://www.infowars.com/evidence-turkish-tv-staged-beheadings/>

[Kurtlar Vadisi TV ショーのトレーラーに、ISIS の首切りと言われているものと、ほとんど同じ場面が見られる。]



トルコが ISIS を支援しているという考えは、今この記事を発表しようとした時点で、さらに緊急の問題になってきた。

アメリカの同盟国であるトルコが、シリアの ISIS 拠点を攻撃していたロシアの戦闘機を撃ち落とした——

11/24: 「プーチン: シリア上空でロシア・ジェット機を撃墜するのは、テロ共謀者に背中を刺されたようなもの」 <https://www.rt.com/news/323262-putin-downing-plane-syria/>

トルコは、ロシアの戦闘機を撃墜することによってロシアの背中を刺し、テロリストの共犯者として振舞った、とロシア大統領ウラジミール・プーチンは言った。

「この事件は、テロに対する通常の戦いから浮き出している。我々の軍隊は、命を賭してテロリストと勇敢に戦っている。

「しかし我々がきょう受けた損失は、テロの共犯者に背中を突き刺されたようなものだ」とプーチンは言った。

・・・

ロシアはかなり前から、石油が、テロリストの支配下にあるシリアから、トルコへ運ばれているのを知っている、とプーチンは言った。

このカネはテロリスト集団の財源になっている。

「IS は大金をもっている。石油の売り上げによる数億から数十億ドルのカネだ。それに加え、彼らは、ある国家全体の軍隊によって保護されている。

「なぜ彼らが、これほど大胆に、これ見よがしに行動しているのか、人は理解できる。なぜ彼らが、これほど残酷なやり方で人々を殺すのか、なぜ、ヨーロッパの中心部を含めて、世界中でテロ活動をやっているのか、理解することができる」と、ロシアの指導者は言った。

ロシア戦闘機の撃墜は、ロシアがアメリカとの合意によって、シリアでこのような事件が起こらないようにしていたにもかかわらず、起こった、とプーチンは強調した。

トルコは、アメリカ主導の同盟の一部として、シリアで IS と戦っているのだと主張している、と彼は付け加えた。

ちょっと待って・・・

この研究調査で我々が提供している完全なコンテキストがなければ、多くの人々は、これによってひどく混乱させられるはずである。

ISIS は、アメリカのテロリスト敵国ということになっているのではないのか？ トルコは、アメリカの同盟国ということになっているのではないのか？

もしロシアが ISIS の拠点を爆撃して、アメリカのテロリスト敵国を破壊しているのなら、ではいったい、なぜトルコは彼らを止めようとするのか？

信じがたいように思えるかもしれないが、ここで考えてほしいことがある。

ISIS は「陰謀団」の代理テロリスト軍団である。トルコは強力な「陰謀団」支持者である。

「陰謀団」は、その政治目的を達成するためには ISIS を必要とする。

ISIS を攻撃するどんな攻撃でも、それは「陰謀団」に対する攻撃である。したがって、いわば捨て鉢的に、近くの「陰謀団」同盟国であるトルコが、ISIS を空爆していたロシアの飛行機を攻撃したのである。

これは読者には全く非現実的に思えるかもしれないが、我々はまだすべての証拠を、提出し始めていない。

## INFOWARS（反体制米メディア）のビデオを見よう

そこで今、いかに ISIS の首切りに正確に一致するように見える場面が、トルコの TV に映っているかを示す、Infowars のビデオを紹介することにしよう。

このビデオは、単にそのことを超えて、ISIS とトルコの深い関係を暴露している。

ところで、ISIS を攻撃して我々をテロから守ってくれるロシア機の撃墜という観点から、これは必見のビデオである——

[https://youtu.be/OlohuNJ8T\\_g](https://youtu.be/OlohuNJ8T_g) 「証拠：トルコのテレビが首切りをやらせた」

## レバノンの前首相が警鐘を鳴らす

上のビデオを見れば、レバノンの前首相 Saad Hariri が、アメリカは、トルコのアンカラの大使館から、イラクの ISIS の作戦を指図している、と言っているのがわかる。

<http://nbc.com/2014/06/22/u-s-embassy-in-ankara-headquarter-for-isis-war-on-iraq-hariri-insider/>

その目標は、イラクとその豊かな油田を、もっと支配しやすくするために、いくつかの国民国家に分割することだった。

ハリリは普通のインサイダーではない。レバノンの前首相として、彼が、自分の主張を証明する絶対的な証拠をもっていることは間違いない。

新しい Infowars の記事が、トルコ、アメリカ、ISIS の間のもっと深い絆を暴露

我々がこれを掲載しようとしたとき、我々は、トルコとアメリカと ISIS の間のもっと深い絆を証明する、ある Infowars の記事を見つけた。

次はその内容の一部である——

11/24: 「NATO は、トルコの ISIS ジハーディスト支持を調査せよ」

<http://www.infowars.com/russian-jet-shoot-down-nato-should-investigate-turkeys-support-of-jihadists/>

2012 年 9 月のベンガジ襲撃事件について、上院情報委員会に公開された高度に極秘の報告書には、オバマとトルコ首相エルドアンの間で交わされた、軍事上の供給物資をリビアからトルコを経て、シリアのイスラム主義者の手に渡すという合意が、細かく述べられている。

この“綱渡り”の兵器輸送のことは、ジャーナリスト Seymour Hersh によって文書記録されているが、ハーシュは、オサマ・ビン・ラディンの死についてアメリカがでっち上げた神話を暴いたため、「ニューヨーカー」をクビになった人物である。

<http://www.lrb.co.uk/v36/n08/seymour-m-hersh/the-red-line-and-the-rat-line>

「テレグラフ」によれば、CIA、サウジ、およびカタール情報局によって創られたグループ、「シリア革命フロント」のリーダー Jamal Maarouf は、兵器をアルヌスラに送るように指示された。

<http://www.infowars.com/more-evidence-u-s-funds-al-qaeda-terrorists-in-syria/>

トルコは、シリアとの国境沿いの——イスラム国の者たちを含めた——ジハード戦士たちを助けている。「トルコの援助は、この国に出入りするジハーディストにとって、なくてはならないものだった」と、トルコの新聞コラムニスト Orhan Kemal Cengiz は昨年、言った。

[http://www.todayszaman.com/columnist/orhan-kemal-cengiz\\_350202\\_why-is-turkey-becoming-a-target-for-the-jihadists.html](http://www.todayszaman.com/columnist/orhan-kemal-cengiz_350202_why-is-turkey-becoming-a-target-for-the-jihadists.html)

ヒラリー・クリントンと彼女の共和党ライバルたちは、シリアに飛行禁止ゾーンを設けるように求めている。Ben Carson と Chris Christie は、**ロシア航空機が飛行禁止ゾーンに入ってきたら、撃墜することを求めた**。

<http://www.breitbart.com/video/2015/11/12/carson-if-russian-planes-enter-no-fly-zone-you-shoot-them-down/>

<http://www.infowars.com/rand-paul-syria-no-fly-zone-recipe-for-world-war-iii/>

両政党とも最後には、あることで合意する！ なんとまあ——

こうした状況の全体が、日ごとに、ますますシュールリアルになっていく。「陰謀団」は、彼らの代理テロリスト軍団の残ったすべてを、保護しようと必死になっている。

これは、もし「陰謀団」が ISIS を失ったら、彼らはディスクロージャーを防止する能力を失ってしまうということを、強力に示すものである。

さてここで、「恐ろしい地球的出来事」に我々が載せた 2 つ目のリンクに取り掛かろう。

これは、ISIS の首切りビデオが、「陰謀団」の作品だということを示す、確実な証拠かもしれない。<http://divinecosmos.com/start-here/davids-blog/1185-events-awakening>

**ロシアのハッカーたちが、James Foley の首切りの驚くべき背後ビデオを入手**

次のリンクでは、我々は、オリジナルの“ジハーディ・ジョン”の、報道記者ジェームズ・フォーリーの首切りビデオを、暴露的アングルから見ていると思われる——

7/11/15: 「ヤラセの ISIS 首切りビデオが、マケインの随員から漏れる（百聞は一見に如かず!）」<http://www.veteranstoday.com/2015/07/11/staged-isis-beheading-video-hacked-from-mccain-staffer/>

CyberBerkut グループのハッカーたちが、イスラム国による捕虜の処刑ビデオを公開したが、これは映像から見ると、スタジオで収録したものだ。

ハッカーたちの説明によると、彼らはこのビデオを、米上院議員ジョン・マケインの友人の持っていた、ある電子機器に見つけたのだという。

「我々サイバー・ベルクートは、その重要さにおいて計り知れない、あるファイルを手元に持っている！

「親愛なるマケイン議員、我々はあなたが、外国、特にウクライナを旅行するときには、あなたの秘密文書を持ち歩かないようにお勧めする。」



リークされた“ジハーディ・ジョン”ビデオの静止写真——ジェームズ・フォーリーのビデオと同じ動きを示すもので、これがすべてヤラセだったことがわかる。

ジハーディ・ジョンは、フォーリーの首を切るふりをする。それから、このリークされたビデオでは、2人は共に笑い、彼は相手の頭の後ろをポンと叩く。

ジェームズ・フォーリーのビデオは、それが初めて現れたとき、ニセ物らしいと言われ、広く専門家に批判された。

<http://www.telegraph.co.uk/journalists/bill-gardner/11054488/Foley-murder-video-may-have-been-staged.html>

このビデオは不思議なことに、首切りの動きが始まると、黒くフェードして、血は全く見られない。

今、我々は、別のカメラ・アングルの、同じビデオを見ている。首切りと言われたものの後で、2人とも笑っている。

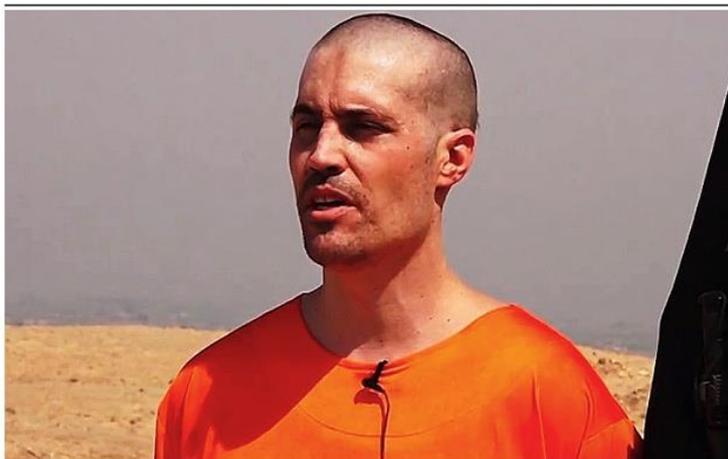
次の写真は、フォーリーの首切りビデオが初めて現れたとき、ニセ物だと非難した「テレグラフ」の記事である——

HOME » JOURNALISTS » BILL GARDNER

## Foley murder video 'may have been staged'

Analysts believe the British jihadi in the video may not have been James Foley's killer, although it is accepted that the journalist was murdered

 10K   0  25  10K  Email



Still from video which shows the beheading of American journalist James Foley

### まずビデオを見よう

このビデオの全長は5分である。ポイントに至るまで全部見る必要はない。

下のバーを動かして、首切りの起こると思えるキーポイントにくると、突然、止まってしまう。

心配ご無用、何も起こらない。血も流れない。すべてニセ物である。彼らは俳優であり、男は首の上で激しい、切るモーションをするが、誰も傷つかない。

男たちはそれから、仲のいい友達のように、じゃれ合っている。

<https://youtu.be/yFKo86uYHyo>

このハックされたビデオを“作り物”だとする試みは馬鹿げている

このリークされたビデオに見るような、手の込んだニセ物を作るとしたら、どれだけ時間と努力が必要か知れない——これを作ったニセ物だと主張するのは全く馬鹿げている。

少なくとも6人のスタッフ、6つのプロ用スタジオ・ライト、2台のハイエンド・カメラ、巨大なグリーン・スクリーン、それに砂漠に見せかけた砂の山がある。

スタッフの2人は、ジハード・ジョンとジェームズ・フォーリーのセリフのための、キューカードを持っている。

左から2番目の男は、より小さいキューカードを持っており、右から2番目の男は、より大きなのを床に据えて持っている。

もしハッカーがペテン師だったとして、これだけのセットを作るとしたら、このスタッフ、装置、スタジオ・レンタルにかかる金額は、少なくとも1万ドルになるだろう。

プロの“3点照明”が使われ、フォーリーの頭が彼の右肩に影を切るように——あたかも太陽でできたように仕組まれている。

幅広いライトが左側に離れて取り付けられ、緑の背景が平均して照明されるように、ハリウッドの標準からしても万全の効果が狙われている。

上の静止写真には、フォーリーの肩に沿って、特に彼の右サイドに、わずかに黒い線が見られるのは、グリーン・スクリーンの効果によるものだ。

彼の背後の砂と空は、おそらく、砂漠の静止カメラで撮られたストック・フィルムからのものだろう。

砂の上部のグレイの部分には、ある程度の **pixelation** が施してあるように見え、これは彼らが、もっともらしいズーム・インをするのに十分な、高い解析度で撮らなかったことを意味する。

現実のシュートで、このピクセレーションは現れないだろう。ここでは、フォーリーが跪いている砂のみが現実には本物である。それ以外のものは、後から加えられたものだ。

ごくわずかの髪が彼の左耳の上に見えるのは、彼の頭がシュートの直前に剃られたばかりで、長い間こうではなかったことを示唆する。

こうした手がかりは、また、説得力ある恐怖の様子が、フォーリーに全くないことをも説明する。彼は自分が演技をしているのであって、死ぬのではないことを知っていた。